

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	住み慣れた地域でその人らしく安心して暮らせる柔軟な支援を事業所の理念にしています。		地域に密着し必要とされる施設になるように追求していきます。
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念はホームの見やすいところに掲示し、毎日の申し送りやホーム会議の中で再確認し、理念の実践に向けて日々取り組んでいます。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の一人ひとりに理解してもらえるよう取り組んでいる。	入居時の際運営の理念をお伝えするとともに、ご家族、来客の方々の目に触れるようにホーム内に掲示し、理解していただけるよう努めています。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩に出かけると事が多くなり顔馴染みの方ができ挨拶を交わしたり気軽に会話する機会が増えています。また近所のスーパー、八百屋さんにはスタッフと入居者様と一緒にでかけ地域の方との交流をもっています。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の催事には体調に合わせ参加していますが、それぞれの方の状態により全員参加するのは難しい状況です。またホーム主催の行事や日本舞踊の方がホームに訪問して下さったときには電話や口頭、ホーム内に案内を掲示し近隣の住民にも参加を呼びかけ交流をはかっています。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町内の方々に認知症や介護に関する不安や相談に対応できるようにしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価の実施方法及び留意事項の書面を作成、職員全員に配布し自己評価に取り組んでいます。評価結果はホーム会議内で検討し改善に取り組んでいます。</p>	<p>外部評価の結果を運営推進会議や施設内で公表し、ご意見を頂きサービスの質の向上に努めていきます。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>回数を重ねることで少しずつですが、質問や意見交換が行われています。それらをもとにサービスの向上に努めていきたいと思えます。</p>	<p>会議の場で施設のあり方について地域の理解と支援をいただけるよう努力していきます。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>月1回行われる地域ケア会議の他、会議の場以外でも町介護保険課の方と密に連絡を取り、サービスの質の向上、提供に取り組んでいます。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>利用者の中で成年後見人が必要なケースがなく、その必要が生じたとき支援できる体制が万全とは言い難い。</p>	<p>地域福祉権利擁護事業、成年後見人制度の理解に努め必要とされるケースに遭遇した際それらの制度を活用するため関係機関と連携を図れるように体制を整えています。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修会、勉強会で周知し身体的、精神的虐待を排除するよう徹底しています。</p>	<p>研修会の内容をホーム会議で伝達しています。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時や退所時には十分な説明を行い、「時間のあるときじっくりご覧になって何かあれば遠慮なく聞いてください」とお伝えしています。特に利用料金や起こりうるリスク、看取りについての対応、医療連携体制の実態について詳しく説明し、同意を得ています。</p>	<p>今後も十分な時間を取りご家族と相談しながら実施しています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々のコミュニケーションを通し何でも話し合える関係作りに努めています。表情や行動の変化を見落とさないよう職員間の話し合いを持ち速やかな対応をしています。		入居者の言動から思いを察する努力をし、個人本位の運営を心がけています。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時に状態を報告、ホーム便りの中でもお知らせしています。なかなか来ることができない場合でも電話や手紙、Eメールで報告しています。金銭管理に関しては家族と相談の上本人が管理したり、事業所で立て替え月末に請求したり、自費購入記録、個人収支記録に記載し家族に確認していただいたりと個々に合わせて報告しています。		それぞれのご家族と連携を取りながら話し合える関係作りと、面会時の報告を実施しています。ホーム便りは定期的に発行し安心して利用していただくようにしています。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居時に相談、苦情について家族に説明し、意見や苦情があるときは運営者に報告、職員全員で改善に取り組み運営に反映しています。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者はできる限り職員と同様に入居者の状況把握に努め生活記録の確認、申し送りの際の意見相談を聞き全職員に伝えるように連絡ノートやホーム会議の場を活用しています。		日常的に職員が自由に意見や考えを述べ、それに対し適切な助言・指導・援助を行うことで意向を反映した運営ができるよう努めています。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	不測の場合は迅速に対応し、その状況に合わせ支援できる体制になっています。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ユニット毎の交流を図りスタッフが気軽に行き来でき利用者全員と馴染みの関係を築くことができるよう努め、利用者へのダメージを防ぐ配慮を日常的に実践しています。運営者は職員の離職を抑える努力をしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員の希望要望によりテーマを決め事業所内研修を行っています。外部研修会や報告会には勤務体制を変更して職員全員が参加できるようにしています。それらの報告はレポートで提出、保管しいつでも全職員が閲覧できるようにしています。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループホーム協議会で同業者と交流をはかり、施設訪問など行い質の向上に取り組んでいます。</p>	<p>互いに行き来できるような関係作りをしていきたいが、遠距離のため実現が難しい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員の親睦の機会を設け、相談やアドバイスを受けています。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>運営者も定期的にホームを訪れ入居者と過ごしたりスタッフの勤務の実態を把握している。職員が日常的に学ぶことができるように資料を提供している。</p>	<p>スタッフの健康を保つための健康診断を実施しています。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入所する前に施設見学と、本人と面接し状態の把握をするともに、本人の話を聞き、ご家族または関係機関の方に同席していただき情報を得るようにしています。</p>	<p>安心して生活が送れるよう本人のペースを把握しご家族や関係される方とも十分話し合い理解と協力を得る体制を取っています。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご家族が気軽にお話しできるような環境と面会時にもお話しする機会を設けご家族の意見を伺うよう努めています。</p>	<p>手紙やホーム便りの発行を継続し、本人ご家族の思いを共有できるように努めます。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必ず本人の状態を報告し、希望に添えるように病院受診、主治医の変更等様々な対応を行っています。		ご家族とともに何が必要なのか、どうしたらよいかについて話し合い他事業所との連携を密に取っています。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	見学や遊びに来られることで協力を得、安心できるように配慮しています。		ご家族や関係する方々の協力を得ながら信頼関係を築いていきます
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	調理の下ごしらえ、調理方法や味見会話等、共に生活していくことでお互いに支え合える関係を共有しています。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	負担にならないよう配慮しながら必要に応じてご家族にも協力していただき、それぞれの役割を持って本人を支援しています。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	外出や外泊で一緒に過ごすことを勧めたり、ホームの行事に家族を誘ったりするなど家族の距離が離れていかないように心がけています。面会時には、本人、家族、スタッフ一緒にお茶を飲みながら普段の生活のこと、本人の思いを伝えるように心掛けています。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人の面会や、馴染みの場所への外出など継続的な交流ができるように働きかけています。		馴染みの場所や交友関係を大切にして協力、支援を行っていきます

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士でおつきあいや会話ができるように気配りしています。お互いを気遣い声を掛け合う場面も見られスタッフも一緒に支えていけるように日々の関係の把握や情報共有に努め、トラブルを未然に防ぐよう配慮を行っています。		孤立しがちな利用者には個別に話を聞いたり楽しく過ごせる場面や雰囲気を作ったりとスタッフが調整役となり関わりを持てるよう努力しています
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	長期入院で退所された方へお見舞いに行き様子をお伺いしたり、退所された方のご家族が面会に来られたり、お茶会を開いたりして下さっています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中から声をかけ、表情や態度から希望や意向を確認しています。ひとりひとりの思いを大切に臨機応変に対応しています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前から本人、家族にできるだけいろいろなことをお話していただき、入所後も面会の際に話をすることで以前の生活情報を把握できるようにしています。		ご家族が同居しておらず、生活歴、趣味、趣向を把握できていないケースが多く、本人から得る情報も少ないですが日々の過ごし方や会話の中から以前の生活を把握できるようにしていきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の会話、ご家族の話などから生活歴、性格、意向を把握し、生活リズム、心理面の変化は生活記録として記録、個人の全体像の把握に努めています。		個人のそれまでの生き方を尊重し、個性を大切に暮らせるように支援しています。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ホーム会議が介護計画のモニタリング、カンファレンスの場となっており、本人、家族の要望を取り入れ次の計画に反映させています。		自分らしく暮らせるようにサービス提供を随時評価することで新たな課題、ケアの方法の変更に取り組んでいます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状況、状態の変化が見られた場合には随時見直しを行い、変化がなくても定期的に本人、ご家族の要望を伺い現状に沿った介護計画を作成しています。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者それぞれのファイルを用意し、身体、精神的状況他暮らしの様子、本人の言葉を記録しています。		いつでもスタッフが確認できるようになっていますが、勤務開始前にファイルの確認を義務化しています。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族の希望要望に応じて通院、送迎、買い物、美容院、お墓参り、宿泊等必要な支援に柔軟に対応しています。		主治医と緊密な連携を取ることでホームでの往診や入院の回避、医療処置を受けながらの生活を継続できるように体制を整えています。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域との様々な接点を見いだせるよう周辺施設へ働きかけやボランティアへの協力を呼びかけを行っていますが今年は新型インフルエンザの関係もあって思うような活動はできませんでした。		関係機関を協力、支援することで安心した生活が送れるよういつでも取り組める体制を整備しています。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人、家族の希望により訪問理美容、訪問歯科受診を利用しています。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議を定期的開催し、地域ケア会議にも参加することで情報交換、相互協力、支援ができる体制を整えております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>運営者(医師)の月2回の訪問診療と、本人、家族が希望するかかりつけ医を利用することにより、家族、かかりつけ医、ホーム間での報告、連絡、相談を密にすることで適切な対応を行っています</p>		<p>救急の受け入れ、訪問診療、休日診療、電話での指示、紹介状を持って専門病院への受診支援など医師の協力のもと適切な対応を心がけている。今後も本人、家族が安心できる支援を行います。</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>個々の希望や症状によりかかりつけ医が異なり、専門医でない場合が多いが随時相談をし適切な助言をいただいています。</p>		<p>専門医に指示や助言を受けている方もおり、日常業務に取り入れるなどしています。</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護師を配置しており看護師を中心に健康管理や状態変化に応じた支援をしています。</p>		<p>主治医、看護師がより細かく入居者の健康管理を行い、本人、家族が安心して生活を過ごせるよう努めています。</p>
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時看護スタッフが付き添い医師に必要な情報を正確に提供しています。又入院中もスタッフが見舞うようにし、本人、看護師から話を聞くことで現状を把握し退院後のケアに結びつくようスタッフ～家族間で連絡を取り合っています。</p>		<p>入院時は速やかに家族に連絡し、医師、家族、スタッフで相談することで早期退院に向けて協同体制を取っています。</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>早期から主治医や家族、本人と十分に話し合い方針を統一し、状態の変化がある毎に報告、相談している、できることとできないことを明確に説明し、方針や支援の具体的な内容を話し合います。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>主治医、看護師を中心に本人や家族の意向を踏まえ本人らしく過ごすためにチーム全員で話し合いを行い支援しています。</p>		<p>利用者本人が最後の時まで望むケアを受けられるように支援しています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	住み替えを希望している方はいませんが、今後の対応として家族の同意の上、新しい担当者に情報を詳細に伝えできるだけ継続した介護が行われるよう移動後も相談や確認など連携を取っていきます。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	自尊心や羞恥心に配慮しプライバシーを損ねるような声掛けにも注意している。個人の記録はロッカーに施錠して管理している。職員の採用時には個人情報に関する誓約書を交わしている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	日常生活の中で利用者各自が自分で決めると言うような声掛けをしています。食べたい物、飲みたい物、見たい番組、何処に行きたいか何をしたいかなど表情や反応も含めその人らしく暮らせるように支援しています。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な日常の流れは決められていますが、その日の体調気分に合わせて自身のペースに合わせた生活ができるように個別に対応しています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	身だしなみは本人の意思で行っていただき、天候や体調にあわせ一緒に選んでいます。		理美容院の出張サービスや、本人が馴染みの理美容院を希望される場合には送迎しています。
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	全員の食事の好みは把握し、別メニューを用意するなど楽しく食事ができるように努めています。利用者様の希望も取り入れ献立を組み立てています。調理の下ごしらえや味見、食後の食器洗いは利用者様と一緒にしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	食前に晩酌を楽しみにしている方がおり、好みの酒の肴を用意しています。当ホームでは施設全体が禁煙となっており、入所の際はその旨を伝え確認しています。飲み物は病状に適した物を用意したり、好みの物を飲んでいただいています。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	夜間はオムツ使用している方でも日中はハビリパンツでトイレ誘導することでトイレの排泄ができています。羞恥心に配慮し個々の状態にあわせた快適な排泄ができるように支援しています。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望するときに入浴できるようにしています。バイタル測定などで健康面でも異状のないことを確認し、その人の状態にあわせて介助しています。		プライバシーに配慮すると共に安全にリラックスして入浴できるようにしています。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	安眠できないのには個々に異なった理由があり、日中の活動をとうして体調や不安感をなくしゆっくり休めるように支援しています。		夜間寝付けない利用者にはお話ししたり、温かい飲み物や好みの物を飲んでいただくなどの配慮をしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々に合った役割を日々の生活や会話などから探し出し、できることをお願いし、感謝の言葉を伝えています		料理の下ごしらえや、清掃、近所の散策、カラオケやレク等全体的な支援の他にも個別に買い物や散歩を行っています。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族の希望もありほとんどの利用者は施設で厳重に管理していますが、家族と相談して少額を自己管理していただく等利用者の力に合わせた金銭管理の支援を行っています		買い物の際はできるだけ自分で支払っていただくようにしていただき、社会性が維持できるよう取り組んでいます

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は散歩に行ったり、地域のお祭りやイベントへ等できるだけ参加の他、買い物や自宅へ私物を取りに行ったりもしています。外出を好まない方の為に階段昇降機を設置し、屋上で戸外に出られるように支援しています。		天候、気分や希望に応じて日常的に外出に出かけています
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	それぞれの希望に応じてスタッフと一緒に外出できるようにしていますが、場合によってはご家族への相談、協力を得て外出できるよう支援しています		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	ご自分でできる方もいますが、個別の状況に、プライバシーに配慮した上で、スタッフが代行で電話をかけたり、代筆して手紙を書いたりしています		それぞれの希望に応じて対応し、支援していきます
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	早朝、夜間は併設施設の門限などのため訪問できませんが日中はいつでも訪問することができます。イベントへの参加も呼びかけ、利用者と家族と一緒に参加していただいています		いつでも気軽に訪問できるように心がけていますが、スタッフに対して特別な心遣いをなさらぬようお伝えしています
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事情により身体拘束が必要な場合は、家族に相談し事情を説明、同意を得て同意書に署名をいただいた場合のみ行うようにしています		身体拘束に関する講習、勉強会に積極的に参加、認識の共有化を図っていきます
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけることはありませんが夜間は防犯のため玄関を施錠しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中はさりげなくスタッフが見守りをしていますが、個々の状態によっては家族と十分に相談、同意書の署名を得てモニターカメラを設置し、夜間利用者の状態変化にいち早く対応できるようにしています		夜間巡回は本人居室を訪問しモニターだけに頼らず安全を確認しています
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	事故を未然に防ぐため注意の必要な物はそれぞれ保管場所を決めて管理しています		使用の際はスタッフも側について見守り、支援を行い共同で自由に使えるようになっています
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	申し送りやホーム会議、カンファレンスで利用者の状況を把握し危険を取り除く支援をしています		事故が発生してしまったときは事故報告書をまとめ報告し、再発を防ぐよう検討しています
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時は医師、看護師に連絡し迅速な対応が行われている。医師の指導のもと応急手当やAED講習会を開き緊急時に対応できるよう努めています		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防火管理者が消防計画を定め毎月の自主検査、年2回の総合避難訓練を行っている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	状態の変化からリスクを予測し随時連絡を取り家族と話し合い危険についての認識を共有、協力を得ています		過度の危険回避とならないよう注意し安全に暮らせるよう支援します
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調や表情など些細な変化も見逃さないように、早期発見に努めています。変化に気づいたら看護師、管理者に報告職員間で情報を共有し、主治医の判断を仰いでいます。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者ごとに独立した薬箱があり、氏名、日にち、朝、昼、夕、食前・食後・就寝前など一包ごとに看護師が記入し、2重にチェック担当者がサインをし飲み忘れや誤訳を防止するようにしています。個々の薬情をファイルで用意し全職員が服薬内容を把握できるようになっています。		スタッフ同士で声かけ、確認してから服薬しています。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘がちな利用者には乳製品や、繊維質の多い食材や、十分な水分補給を取り入れています。また体調に合わせて散歩や無理のない活動で体を動かし、できるだけ自然排便できるよう努めています。		下剤服薬は主治医と密に連絡をとり適切な排便コントロールをしています。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後のうがい歯磨き、義歯の洗浄は声掛けや介助で実行しています。食欲がない時は虫歯や歯茎のチェックを行い早めに対処できるようにしています。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	それぞれの食事や水分摂取量を毎日記録しており、職員全体が常に意識して毎日の献立を決めています。栄養士が献立の栄養バランスをチェックしています。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者、スタッフは全員インフルエンザの予防接種を受けています。外出から帰ったときや食事前には手指の洗浄や消毒をしています。		感染予防のためペーパータオルを使用しています。毎日施設内清掃時には塩素系の洗剤にて主に手すりドアノブ等の拭き掃除を行っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所用品、おしぼり布巾類は毎日漂白消毒をしています。食材はできるだけ1回で使い切れる量で仕入れ新鮮なうちに提供できるようにしています。</p>		<p>居室にて使用されている冷蔵庫内の飲食物の確認も随時行っています。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>構造上玄関まわりはくつろげるようなスペースを確保できないが、季節に合わせて門松、正月飾り、七夕飾りほか小物を飾り工夫をしています。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>利用者と一緒に季節に応じた装飾を行ったり、小物を作成したり穏やかに過ごせるようにしています。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>自由に共用空間を利用したり、自室で過ごされたりされスタッフはさりげなく見守り支援しています。</p>		<p>状況に応じてすしやすい環境作りに努めています。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時には本人の馴染みの物を用意していただくようお願いし本人、家族と相談の上配置しています。場合によっては施設から家財道具を貸し出し、配置しています。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>必要に応じて換気を行い調節しています。</p>		<p>換気の方法、汚物の処理、清掃についても配慮していきます。</p>
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりを設置し、見守りや声掛けなどさりげない支援を行い、更に安全に配慮しています。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室前には家族の同意を得て表札と写真を設置しています。個々の状態にあわせ声掛け見守り誘導を行うことで安心して過ごせるよう支援しています。		
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	外回りの小さな花壇に花や、野菜を植えています。草取りや水をやり収穫と利用者と一緒にしています。		来年は屋上をもっと活用し楽しみを増やしたい。

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

24時間体制の医療提携　利用者の健康管理　地域の旬の食材を利用した食事の提供　屋上使用によりな景色を堪能でき利用者、スタッフの気分転換や憩いの場所がある。